

本年度（平成29年度）の学校評価

本年度の 重点目標	さまざまな場面を通じて、生徒が自主的な学習者となることができるよう、教科及び分掌で創意工夫する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
保護者・同窓会との連携 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対し、本校教育活動への更なる理解・協力を得るため、PTA活動への積極的参加を呼びかけ、役員中心の運営を目指す。また職員との連携の強化を図る。</li> <li>保護者懇談会の更なる改善を図る。</li> <li>ホームページの充実を図る。</li> <li>同窓会の充実・発展への支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA委員会で各活動への積極的参加を依頼するとともに、きずなネット、ホームページなどを通してPTA活動の積極的発信をする。保護者のニーズに合った研修会を実施する。</li> <li>PTA委員による評価を行い、結果をできるだけ反映させるようにする。</li> <li>同窓会の役員中心の活動を、積極的に支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動に積極的な参加ができる雰囲気を作る。</li> <li>HP、広報誌「みな美」等を通してPTA活動の広報、発信についてのさらなる理解・協力を得、連携の強化を図る。</li> <li>PTAや同窓会との連携・協力体制をより一層深める。</li> <li>同窓会総会を役員中心に行ない、平成30年度総会の積極的な開催を促す。</li> </ul>
学習指導 (教務部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの楽しさを生徒に実感させながら、生徒が課題を発見し、解決策に取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につけることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の質的向上を図るとともに、生徒が予習・授業・復習のサイクルを確立できるよう指導内容・指導方法について工夫をする。</li> <li>適切な学習課題を与えながら、自主的に学ぶ姿勢の確立・習慣化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生活実態調査の結果を生徒にフィードバックする。</li> <li>長期休業中の学習計画を具体的に立てさせ、学習についての指導・助言を充実させる。</li> <li>教科主任会、教科会、学年会との連携を密にし、成績不振の生徒・欠課の多い生徒の状況把握と早期の対処に努める。</li> </ul>
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路意識を喚起し、各自が自立した進路選択ができるように導く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年に適した進路ガイダンスを実施し、生徒が各自の将来の目標に向けた進路実現を達成できるよう指導する。また、各学年の要望を把握し、適切な情報を提示する。</li> <li>各学年に、長期休暇で実施される職場インターンシップや、大学で開催される高校生向けの学習講座などを積極的に紹介し、知的好奇心を高めるとともに、職業を見据えた大学進学等の意義を考えさせる。そのために今年度は、進路で厳選したインターンシップや大学の学習講座等を、各学年の担任会で提示し、担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年と連携をとり、適切な資料を提示し、生徒の進路意識を喚起する。</li> <li>職場インターンシップや、大学の研究講座などを、学年進路掲示板に随時提示し、全生徒の意識を高めるよう努める。</li> </ul>

		任を通して生徒に紹介していただく。	
生徒指導 (生徒指導部)	・規律ある生活習慣の確立と定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の「身だしなみ指導」を実施</li> <li>・遅刻防止のための「校門立ち番指導」を実施</li> <li>・スクールカウンセラー（SC）の設置と連携を図るとともに、高校生活実態調査を活用し、いじめ等の問題を把握する。</li> <li>・生徒指導部による、企画運営の講話や全体集会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会と協力し、段階をおった指導を日常的に粘り強く行う。</li> <li>・制服を自ら端正に着用するよう指導の工夫を図り、自己指導力を定着させる。</li> <li>・校門遅刻3回で3日間の早朝登校（8:10）を課し、生活のリズムを整えさせる。</li> <li>・SCとの連携による教育相談の充実を図る。</li> <li>・生徒に対し、毅然と受容のバランスを念頭においた指導の実施</li> </ul>
図書館活動 (研修部)	・図書館の利用促進と生徒の読書意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料の充実と、読書・学習の場としての環境整備をさらに推進する。</li> <li>・図書委員会の機能的な活動をサポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用者の増加に向け、行事・掲示・宣伝の工夫に努める。</li> <li>・調べ学習や、発展学習に役立つような選書をし、スムーズに処理ができるよう館内整備に努める。</li> <li>・図書委員の各係活動を細分化し、主体的に活動できるように指導する。</li> </ul>
特別活動 (特別活動部)	・生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部会・各種委員会の活性化及び定例日の活用</li> <li>・生徒会執行部、各種委員会による行事の企画・運営とそのため組織作りおよび生徒会会則の見直し</li> <li>・生徒会室の整備、資料・記録の整理</li> <li>・ボランティア活動（校外清掃・募金運動など）の企画・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と各種委員会の連携を密にし、各種行事において組織的な活動ができるように指導・助言する。</li> <li>・生徒議会・各種委員会の運営を生徒自身で行えるようにサポートする。</li> <li>・資料・記録を整理できるような環境を整え、生徒間で引き継ぎをできるように援助する。</li> <li>・生徒会行事・ボランティア活動の充実を図るために活動内容・方法を工夫する。</li> </ul>
美化活動（ゴミ分別回収の徹底と清掃の充実） (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外から持ち込んだものは極力持ち帰るように働きかける（ゴミの減量化）。</li> <li>・ゴミ分別に対する意識をさらに高める。</li> <li>・トイレ環境の整備・美化と、その維持に努める。（トイレの正しい利用方法の普及・徹底と清掃の充実）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別回収に対する生徒及び教職員の意識高揚のため、掲示物を整備し、呼びかけを充実させる。</li> <li>・現場（教室）での分別回収を徹底する。</li> <li>・年間に美化委員会を数回開き、委員の仕事を徹底させる。</li> <li>・生徒（特活部）に働きかけ、生徒の自主活動を通じて美化意識を高めていく。</li> <li>・外庭清掃時の移動を早くすると同時に、靴の履き替えを徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化委員会の開催を通じて、各クラスでの問題点、改良点などの情報交換を充実させる。</li> <li>・紙類を含め、すべてのゴミの分別に関して、根気よく継続的に啓発する。</li> </ul>

		・校門付近で配られるチラシ・パンフレット類の受け取りについての指導を徹底させる。	
--	--	--	--

## 前年度（平成28年度）の学校評価

### ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	さまざまな場面を通じて、生徒が自主的な学習者となることができるよう、教科及び分掌で創意工夫する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保護者・同窓会との連携 （総務部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対し、本校教育活動への更なる理解・協力を得るため、PTA活動への積極的参加を呼びかけ、連携の強化を図る。</li> <li>・保護者懇談会の更なる改善を図る。</li> <li>・ホームページの充実を図る。</li> <li>・同窓会の充実・発展への支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA委員会で各活動への積極的参加を依頼するとともに、ホームページなどを通してPTA活動の積極的発信をする。保護者のニーズに合った研修会を実施する。</li> <li>・PTA委員による評価を行い、結果をできるだけ反映させるようにする。</li> <li>・同窓会の役員中心の活動を、積極的に支援する。</li> </ul>	<p>本年度の総務関係の行事等は、ほぼ予定通りに終了することができた。来年度に向けて継続をしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・式典関係は生徒の協力も有り、静寂の中で適切に進行することができた。</li> <li>・PTA総会は学年別懇談会も含め、概ね良好に終了することができた。参加者は例年並（250名程度）であった。</li> <li>・PTA委員会は役員・委員の協力のもと予定時刻を大幅に短縮できた。準備を確実にし、次年度につなげたい。</li> <li>・PTA各種行事は若干参加者が減少したが、内容は盛会で参加者の感想も良好であった。募集方法をうまく行いたい。</li> <li>・保護者懇談会は本校校舎での実施となったが、大きな混乱もなく、多くの参加者のもと盛会に終わることができた。参加者に父親が増えてきたので、今後も継続をしていけるように案内をしていきたい。保護者アンケートは学習面・進路面・施設面に多少のご意見をいただいたが、概ね好意的な結果であった。各分掌で反映をお願いしたい。</li> <li>・本年度は同窓会の総会を行わない年度であったので、理事会を開催し、同窓会会計の監査等を実施する予定である。</li> <li>・ホームページの更新は、適切な時期に実施ができた。来年度も続けていきたい。</li> </ul>
学習指導 （教務部）	<p>授業を基本とし、家庭学習の定着を図り、基礎学力の充実及び向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の質的向上を図るとともに、生徒が予習・授業・復習のサイクルを確立できるよう指導内容・指導方法について工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の家庭学習時間は、生徒の目標が明確であり、増加してきた。</li> <li>・1・2年生は、学期を追うごとに部活動との両立ができてきている生徒とできていない生徒の成績や家庭学習時間の差、さらに意識の差が広がってきている。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業と家庭学習（休日・長期休業中を含む）が効果的に結びつくよう、適切な学習課題と学習方法を示し、家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォン等の利用の仕方を継続的に指導し、時間の使い方についても工夫させる。</li> <li>・学習と部活動との両立を目指し、明確な目標を持たせながら、粘り強く指導を継続する。</li> <li>・新しい成績処理ソフトを提示し、スムーズに移行できる体制作りをする。</li> <li>・アクティブラーニングへの理解を深めるため、教務部内での研修を始める。</li> </ul>
進路指導 (進路指導部)	生徒の進路意識を喚起し、各自が自立した進路選択ができるように導く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に適した進路ガイダンスを実施し、生徒が各自の将来の目標に向けた進路実現を達成できるよう指導する。また、新たに外部講師等による進路講話の実施を検討する。</li> <li>・各学年に、長期休暇で実施される職場インターンシップや、大学で開催される高校生向けの学習講座などを積極的に紹介し、知的好奇心を高めるとともに、職業を見据えた大学進学等の意義を考えさせる。</li> <li>・進路の各データを、職員が共有でき、進路指導に生かせるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場インターンシップ参加人数は、「一日看護体験」に7名、「幼稚園体験」に6名、NPOアスクネットに1名、合計14名（昨年20）であった。2年連続減少している。要因としては幼稚園教諭希望者が減少傾向にあるためである。来年度は、幼稚園以外も積極的に勧めたい。</li> <li>・2、3年生対象の、オープンキャンパス、大学の学習講座等への参加人数調査結果では、オープンキャンパス:2年130名(昨年107)、3年212名(昨年176名)。学習講座:2年34名(昨年28)、3年50名(昨年30)という結果であった。顕著な点は、三重、岐阜のような近隣のみではなく、関東、関西方面の約30の国公立大学のオープンキャンパスに、積極的に参加している点である。来年度はより一層県外の国公立も勧めたい。</li> <li>・今年度も1年生の探究の授業で大学模擬講義体験を実施し、満足度は高かった。この模擬授業体験が3年になって大学の学部選択の一助になっている生徒もいる。</li> <li>・昨年度の要望を受け、1年生の探究の授業の大学学問分野調べに入る前に、類型選択ガイダンス時に進路ガイダンスを実施した。また、外部講師による進路講演も探究の授業と連動させることができた。</li> <li>・今年度、3年生対象に、3大学の入試説明会を11月に校内で実施した。文系、理系とも約120人の生徒が、各大学の説明を真剣に聞いていた。来年度も継続する。</li> </ul>

<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>規律ある生活習慣の 確立と定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の「身だしなみ指導」を実施。</li> <li>・遅刻防止のための「校門立ち番指導」を実施。</li> <li>・スクールカウンセラー（SC）の設置と連携。</li> <li>・生徒指導部による、企画運営の講話や全体集会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる教育活動の場面において、生徒の自己指導力を育む積極的生徒指導を意識し、実践していく。</li> <li>・遅刻の原因を究明し、対策を取っていく。身だしなみ指導や遅刻指導での教員間の共通理解の徹底を一層強化し、組織的な指導と対応ができる雰囲気と体制を整備していく。</li> <li>・教育相談体制の充実を図るべく、SCや外部関係諸機関との連携を一層強化し、問題を抱える生徒に対して、組織として対応連携できる体制づくりの確立を図っていく。</li> <li>・各種検査からわかる生徒の状況を教員間で共有し、生徒への対応へ活かしていく。</li> </ul>
<p>図書館活動 (研修部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用促進と生徒の読書意欲の向上</li> <li>・情報・学習センターとしての図書館の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出者数、貸出冊数の目標を設定する。(年間500人、6000冊)</li> <li>・図書委員会の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出冊数は昨年と比較して、5798冊→5746冊、(12月末現在)と減少気味だが、貸出実人数は534人→541人、と微増しており、昨年同様生徒の図書館利用率も良好である。今年度目標の年間500人も無事達成し、貸出6000冊も年度末までに達成可能だと思われる。</li> <li>・昨年度より設置している廊下のフリースペースは、ほぼ毎日朝や業後に自習している生徒の姿を見かける。今年は、新たにフリースペースにも本の展示やPOPを設置したところ生徒の目に留まり、貸出に繋がった。また、貸出用のブランケットも設置してみたところ大変好評で、多くの生徒に活用されており、図書館来館のいいきっかけ作りになっている。</li> <li>・図書委員も意欲的に活動しており、福引大会の景品作成などの有志を募ったところ10人以上も参加してくれて、今年はより多くの景品が用意できた。</li> <li>・今年度は、授業や調べ学習での図書館活用も少しずつ増えており、授業をきっかけに図書館を来館の機会が増えた生徒もいた。来年度は、もっと沢山の教科の活動で使ってもらえるよう、情報発信と資料収集に力を入れたい。</li> </ul>

<p>職員研修 (研修部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修会、授業研究の機会の確保</li> <li>初任研・教職経験者研修などの校内体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の現状にあった授業方法や生徒指導の在り方を研究できる研修を実施する。</li> <li>あらかじめ年間の研修計画を作成し、各種研修が偏りなく実施できるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修会は、関係分掌の協力により年間計画に従って4回実施した。教員個々の基本研修も年度当初に立てた計画通り、滞りなく終了できる見通しである。</li> <li>初任者研修の研究授業は、予定時間を実施できる見通しである。参観者は、実施時間によっては限定されてしまった部分もあったが、関係教科にとどまらず多数の教員の参観が得られ、さまざまな角度から講評していただき、授業担当者にとって有意義で貴重なものとなった。</li> <li>初任研、2年・5年・10年経験者研修は、今後も対象者が出ることを想定して、関係教科・分掌との連携を保ち、いつでも円滑に実施できる体制を維持していきたい。</li> </ul>
<p>特別活動 (特別活動部)</p>	<p>生徒会活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>執行部会・各種委員会の活性化及び定例日の活用</li> <li>生徒会執行部、各種委員会による行事の企画・運営とそのための組織作り</li> <li>生徒会室の整備、資料・記録の整理、ボランティア活動(校外清掃・募金運動など)の企画・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動を生徒による自主的な活動にしようという意欲を持った生徒会執行部が、連日生徒会室を中心に活動し、各委員会も委員会顧問と連携をとりながら活発に活動できた。全体的に生徒会活動は充実しつつある。</li> <li>夏季球技大会、名南祭においては、関係委員会や職員の皆さんの協力により、無事実施できた。また、各委員会の組織的な動きもできつつある。昨年度に比べて、委員会全体が主体的に動けるようになってきた。</li> <li>ボランティア活動(校外清掃・募金運動など)も定着しつつある。今後は、年間を通じてボランティア等を意識できる活動も考えていきたい。</li> </ul>
<p>保健部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外から持ち込んだものは極力持ち帰るように働きかける(ゴミの減量化)。</li> <li>環境に配慮し、ゴミの分別状況の向上を図る。</li> <li>トイレ環境の美化に努める(トイレの正しい利用方法の普及・徹底と清掃の充実)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別回収の意識を高め、教室での分別回収を徹底する。</li> <li>年間に美化委員会を数回開き、委員の仕事を徹底させる。</li> <li>分別回収に対する生徒及び教職員の意識高揚のため、掲示物を整備し、呼びかけを充実させる。</li> <li>生徒(特活部)に働きかけ、生徒の自主活動を通じて美化意識を高めていく。</li> <li>必要に応じ、可能な範囲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的には、外部からゴミとなるようなものを持ち込まない、持ち帰るという今までの姿勢を徹底し、ゴミの分別・減量化に更に取り組む。</li> <li>教員の現場指導があつて、生徒の清掃習慣の定着・習慣化が図られるので、今ある体制をより充実させていく。</li> </ul>

		で、施設・用具の充実を図る ・校門付近で配られるチラシ・パンフレット類の受け取りについての指導を徹底させる。	
総合評価	重点目標については、各分掌とも意欲的に取り組み、おおむね成果を上げることができた。世代交代を意識して、伝統の継承と改善、新たな取り組みのバランスも取れつつある。今後も状況に応じた柔軟な取り組みを進めたい。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	校務分掌の取組について 総務部・教務部・進路指導部・生徒指導部・研修部・特別活動部・保健部
自己評価結果について	各校務分掌が示した重点項目については、職員の共通理解と協力により、おおむね達成できている。このことは、生徒の「学習状況等の調査」や保護者による評価結果にもよく表れている。
今後の改善方策について	今後も、地域や保護者の期待に応える応える目標の設定や、それが達成できるような取組を実践し、また、その検証を行っていくことで、目標の達成に向けて努力していきたい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	具体的な目標と到達度を明確に設定し、その実現に向けてよく努力した結果が各分掌の評価結果に表れている。また、日頃の生徒の学習活動、学校行事への取組の支援の状況も評価できる。それが生徒の日常生活の様子や落ち着いた学校の雰囲気にも現れている。部活動や生徒会活動なども活発に行われており、学習に偏っていない教育活動が評価できる。ただ、先生方に過度な負担がかからない配慮をして戴きたい。 今後も、長期的展望に立った組織的な改善計画とともに、短期的な目標設定とその実現への工夫、努力をしていきながら、職員の意識の高揚と共通理解を図ることが大切である。多様な価値観を持つ生徒理解、保護者との連携を大切にしながら、名古屋南高校の目指すものの実現に、職員の指向性や協働性を一層高めていくことが今後の課題である。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成：学校評議員5名（PTA会長を含む） 評価時期：6月上旬、2月上旬